

CELHOME エッセイ

「セ・ロム」はゲーテの人柄をナポレオンにして「セ・ロム」(これぞ、人間だ!)と言わしめた伝説の言葉。
「エッセイの森」は面白く、有意義な読み物(木々)がたくさん集まり、森の如く知の緑を成す(SDGs)ことを意味する。

『ユーモア』が繋いだジョークサロンとの縁

ジョークサロン会員 / リレーエッセイ ⑥

【ユーモアで人生を豊かに】

人の縁とは不思議なもので、私とジョークサロンの出会いもひょんなことがきっかけでした。2019年3月、浦和市主催の「日本語教師養成講座」に参加した時、ある講義で講師から「あなたにとって人生で一番大切なものは何ですか」という問いが出され、「健康」、「家族」、「お金」など、いろいろな言葉が飛び交いました。私が「ユーモアです」と答えると、隣に座っていた女性が「ユーモアと言う人はあまりいないわね。私が参加している『ジョークサロン』というサークルは、ジョークやユーモアの好きな人たちが集まっているから、興味があつたら訪ねてみたら？」と声をかけてくださいました。その方のお声かけがなければ私とジョークサロンの縁はありませんでした。

ジョークやユーモアは生きていくうえでとても大切なものだと思います。大学時代のある教授の言葉は今も忘れられません「笑顔とユーモアは旅の必需品だよ」。外国で暮らしたり外国を旅したりする時、ユーモアや笑顔はその場の緊張感を和らげてくれます。これは特にイギリス暮らしの中で学びました。付き合いのあったイギリス人たちはとにかくユーモア好き、というか会話にユーモアは付きものと思っている人たちで、彼

らの話しはとても楽しく場が和み、こういう風にユーモアを会話に挟むのね」と何度思わされたことでしょうか。

【ジョークサロンと私】

さて、話を戻しましょう。ジョークサロンがどんな集まりなのか一度覗いてみたいと思ひサロンの変集鳥(編集長)に連絡し、2019年5月の例会で会員の方々と初めてお会いしました。皆さんの個性ある作品を楽しくお聞きしたり、タイムング良く飛び出すダジャレやジョークに笑わされたりしていると、あつという間にお開きの時間となりました。参加したいけれど、そのためには毎月何らかの作品を提出しなければならぬように、さて私には何が出来るかしらと躊躇しました。でも、変集鳥の「どんな作品でもいいですよ。まずは笑いに出来るだけでもいいですよ」という暖かい言葉に背中を押され、それなら以前から楽しんで書いた回文で参加してみようと思ひました。それから約5年半、今では回文に加え、二文字しりとり、段駄羅の三本柱で作品づくりを楽しんでいます。回文は以前から作っていました。二文字しりとりや段駄羅はジョークサロンに入ってから知った言葉遊びです。言葉遊びの世界を広げてくれる仲間たちに感謝しています。

【回文・二文字しりとり・段駄羅】

「回文」とは「たけやぶやけた」「しんぶんし」などでご存じのように前から読んでも後ろから読んでも同じ音の文章です。因みに私の回文のペンネームは「こじままじこ」。回文は15年ほど前から楽しんでいますが、いつしか駅名、看板、人名前などを逆から読んでみるクセがついてしまっています。さて次の文を上から、下から読んでみてください。

「極楽、金さん銀さん聞く落語」

鳩、けだるき一日一日、

生きるだけとは

「イタリアで嘘は言わないな、

ワイはそうでありたい」

以前、アーティストの友人と、回文と絵のコラボで「回文と絵を楽しむ」という個展を何度か開きました。最近では2024年に自由学園園日館で「回文アート展」を開催しました。

「二文字しりとり」は、しり通りの二文字版で、単語・文章の最後の二文字を次の単語・文章の頭に置いて新しい文章を作っていきます。それを繰り返して、詩のような世界を作り上げる面白い言葉遊びです。

「秋のバレンシア 幸せな日々 響く

教会の鐘の音 訪れるものに優しく

シクラメンの花 花屋の店先 咲き

誇る花に 何を思う もう冬が近い

と、いとおしむ秋(先頭に戻る)」

「段駄羅」は石川県能登半島の輪島で漆塗り職人たちが仕事の息抜きのために楽しみ、地域に広まった言葉遊びだそう。俳句と同じ五七五の形で、五七五の七の部分に同音異義の言葉を重ね、

異なる二つの景色を読み込みます。

「遺言は 公証役場 / 交渉役は

いつも俺

「菜の花や 月は東に / 次は千菓子に

手を伸ばす」

「不景気で 倒産間近 / 父さんマジカ

その茶髪」

前後でがらりと風景が変わる面白さを楽しめませぬ。

日本語は様々な言葉遊びが出来る言語です。なぞかけ、語呂合わせ、アナグラム、駄洒落、都都逸、戯れ歌、短歌、俳句、川柳、しり取り等々。外国語でこれほどバラエティーに富んだ言葉遊びが出来る言語はあるでしょうか。

ジョークサロンでは会員ひとりひとりがそれぞれ得意とする言葉遊びを作品にして楽しんでいます。さあ、今月どんな作品に出会えることでしょうか。

著者プロフィール

こじま ゆうこ
小島 裕子



山梨県生まれ。玉川大学文学部卒業後、商社勤務。夫のサバティカルでロンドンに二度の滞在。滞在中イギリスの文化について「暮らすように旅する」をテーマにヨーロッパ各国の旅を楽しんでいる。現在は、ジョークサロン、NPOロングステイクラブ(海外ロングステイアドバイス等)、東京SGGクラブ(外国人観光客の都内ガイド・博物館ガイドボランティア)で活動。趣味は旅、ワイン、落語鑑賞、世界のポストの収集など。